

# やっぱりムリです4月実施

## 待ったなしの産休明け保育・

## 延長保育も、区で責任を持って

中野父母連でまとめた「よりよい保育についてのアンケート」(2002年1月実施)では、子育てをする親子に必要な保育ニーズとして、以下のような要望があげられました。

- 第1位：産休明け保育とその定員増
- 第2位：行事を父母の労働実態に合わせて欲しい
- 第3位：延長保育の定員増
- 第4位：病中・病後児保育
- 第5位：先生方とのコミュニケーション
- 第6位：産休明け保育とその定員増

産休明け・産休明けの要望を合わせると、2位の2倍の要望でした。  
労働環境の悪化で、育児休業がとりづらい職場が増える中、産休明け保育を望む声は、待ったなしの状況になっていると思われます。

民間委託対象とされた園や、その園の入園希望者にも、産明け・延長の要望は渦巻いていますが、「子どものために、しっかり委託について考える時間が欲しい」という保護者として当たり前の声と、「産明けで働かねば食べられない」「延長が明日にでもほしい」という実情がねじれあって、深刻な悩みとなっています。ことに、宮園乳児保育室が廃止になった宮園保育園地域の父母には、重い現実がのしかかっています。

宮園乳児保育室の廃止も、区立保育園の運営委託も、

区の都合によってすすめられていることです。

父母や子どもに、ツケを負わせるのではなく、

「時間をかけること」

「待ったなしの産休明け・延長の要望にこたえること」

両方に責任を持って欲しいのです。

中野父母連は、時間をかけて、保育行政に関わる皆様と率直に話し合える関係を築いてきました。今回の件でも、率直な話し合いが始まるよう、熱く要望致します。